

## 広報・教育部門

応募事例名

## 官学連携 近畿大学で下水道特別講義

応募団体名)八尾市・近畿大学経営学部

## 応募事例の概要

- **下水道事業経営**に関する特別講義を**約半年間(全15回)**にわたり実施
- **学生のアイデア**による4コマまんがを**コラボ作品としてリリース**

## 応募事例の内容

- ・八尾市と近畿大学経営学部が、連携協定に基づく**特別講義「八尾市の下水道政策」**を**約半年間(全15回)**にわたり実施
- ・**「下水道事業の経営」**を中心に、その背景となる財源や内部留保資金、さらには広報など幅広いテーマについて講義を行い学生とディスカッション
- ・老朽化対策や下水道使用料の減収など、現場で実際に起こっている現状や課題**そのまますを生きた教材**として、市職員も講師として参加
- ・学生が**我が事**として感じることでできた下水道の課題や、将来のあるべき姿についてプレゼンし、広報施策である**「4コマまんが」のアイデア**を発表、後に市が**コラボ作品としてリリース**
- ・学生にとっては、生活に不可欠な下水道を**身近に意識し、経営に関する課題を実感**する機会となった



## PRポイント

- ・市職員と大学教員・学生の官学連携による、人的・知的交流の取組み
- ・市の現状や課題を生きた教材として、「下水道事業の経営」に関する講義を約半年間にわたり実施
- ・学生目線で、学生から発せられる言葉として課題に対する提案がプレゼンされた
- ・今後の下水道事業を担う将来世代への情報発信や、下水道サポーター確保への貢献
- ・大学は、公共サービスを取り巻く“社会課題のリアル”に触れられる貴重な経験を講義に取り入れた
- ・市は、若い世代の意見や提案を直接得ることができ、双方にとってメリットがあった

## 取組みに関するエピソード

- ・日常で意識することが少ない下水道に対し、まずは学生に関心を持ってもらい、そのうえで具体的な講義を進めていけるよう、社会人としての心構えや公務員という職業のことなど、下水道に関係のない話から始めていきました(市職員)
- ・学生は下水道事業を取り巻く課題が決して他人事ではないことをリアルに感じてくれたと思います
- ・プレゼンでは、彼らの世代から発せられる言葉だからこそ、非常に強い説得力があると感じられました

近畿大学経営学部  
教授 浦上 拓也